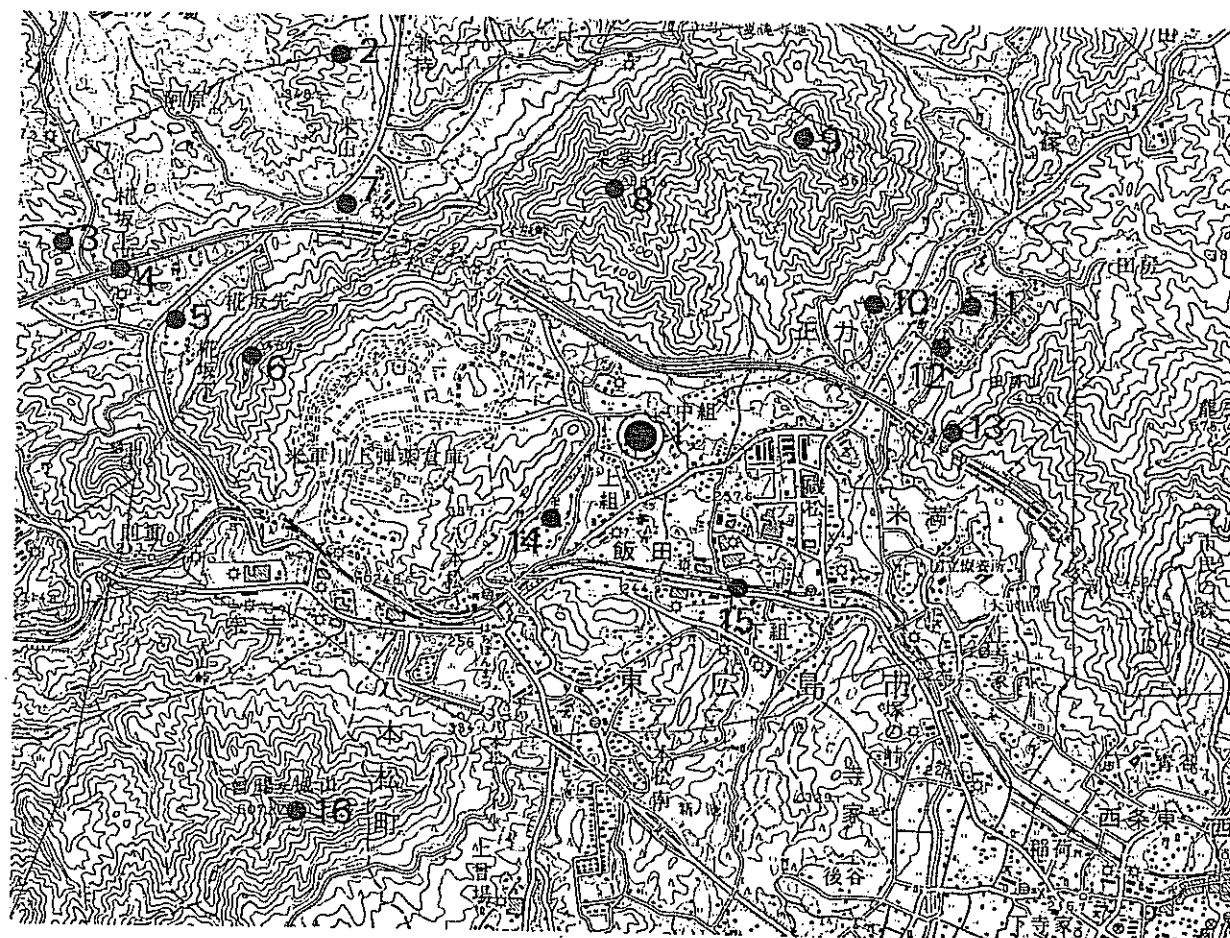


東広島市八本松飯田
じょうぶつ ど い
城 仏 土 居 屋 敷 跡 遺 跡 見 学 会 資 料

平成 16 年 2 月 28 日
財団法人東広島市教育文化振興事業団



遺跡の位置と周辺遺跡分布図（1：50,000）

- | | | |
|-----------|---------|-----------|
| 1 城仏土居屋敷跡 | 2 古屋城跡 | 3 穂坂城跡 |
| 4 寺谷遺跡 | 5 先条城跡 | 6 茶臼山城跡 |
| 7 米山城跡 | 8 清滝城跡 | 9 南条城跡 |
| 10 藤が迫城跡 | 11 古屋城跡 | 12 熊谷城跡 |
| 13 煎汁が城跡 | 14 土居遺跡 | 15 土居の内館跡 |
| 16 曾場が城跡 | | |

1 位置と環境

城仏土居屋敷跡は、東広島市八本松飯田八丁目に所在し、西条盆地の西端に位置します。現在は水田となっており、標高は約 250m です。周辺には、中世の館跡・城跡が多く存在します。

2 遺構の概要

調査の結果、屋敷跡の南端部分が明らかになりました。屋敷跡の中心は、発掘調査範囲より北側の微高地と考えられ、北側には土塁が残っています。本屋敷跡では、上下 2 面の生活していた平坦な面が確認されました。下面の遺構は造られた当初の屋敷跡と考えられ、東西の規模は約 40m です。周囲には堀がめぐらされており、幅は 3～5 m です。堀は西側で一部途切れる部分があり、通路と推定されます。また、根石をもつ大きな柱穴があることから、門があったと考えられます。平坦面には、掘立柱建物 5 軒、溝 2 条、土坑 2 基のほか柱穴が多数あります。

上面の遺構は新しい時期の屋敷跡と考えられ、東西の規模は約 80m と敷地を拡張していました。東側では、古い堀を埋め立てて、その外側に土塁を築き、土塁の外側に新たに堀を 2 本設置しています。堀の幅は内堀約 3 m、外堀約 6 m で、深さは 1.5～2 m です。南側の堀は途中で調査区外に延びていますが、西側の堀は、幅約 7 m、深さ 1.6 m で、堀底の東側は石垣で護岸されています。また、堀の内側には幅約 8 m の土塁が残っています。中央部分の高い平坦面からは多くの柱穴のほかに井戸、鍛冶炉とおもわれる鉄滓を充填した土坑などがありました。

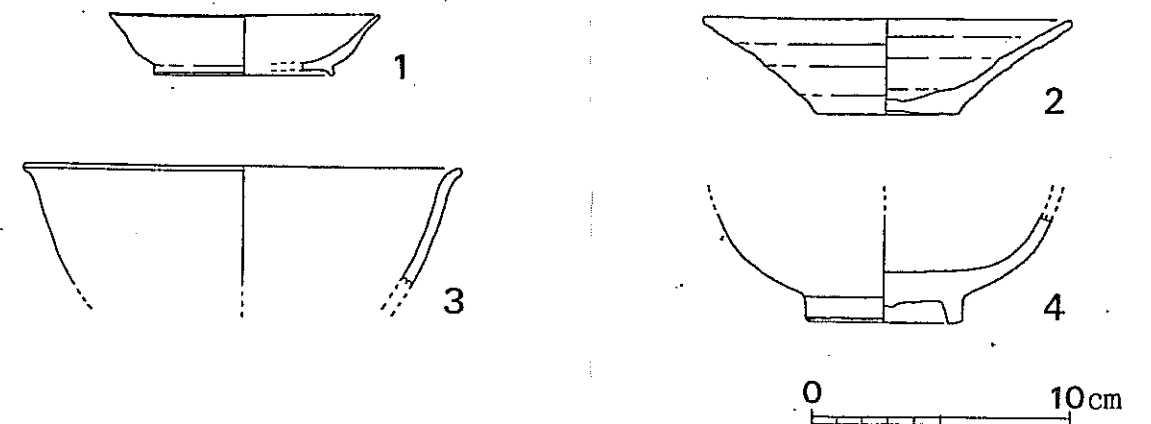
なお、上面・下面それぞれ堀付近には、防御のための柵穴が多数確認されました。

3 遺物について

土師質土器（坏・鍋・鉢・甕）、陶器（甕・播鉢）、磁器（碗）、漆器（坏）、木製品（下駄）、古銭などが出土しています。

4 まとめ

出土遺物などから、15 世紀を中心とした室町時代の遺跡と推定されます。

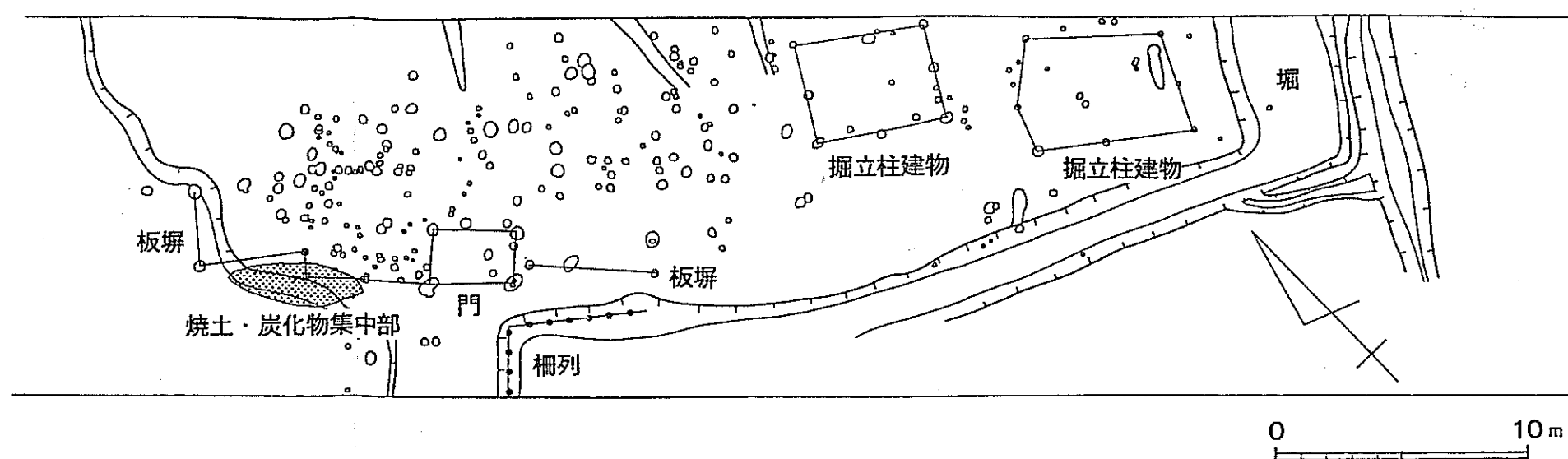


出土遺物（1：3）

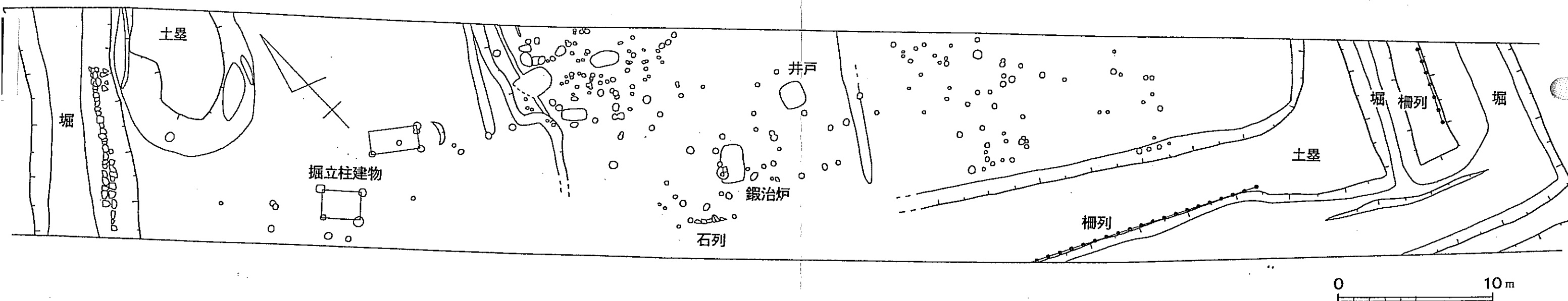
- 1 漆器坏 2 土師質土器坏 3, 4 青磁碗



城仏土居屋敷跡略測図 (1 : 2000)



下面遺構配置図 (1 : 250)



上面遺構配置図 (1 : 250)